

平成25年度 第2回北区まちづくり協議会全体会

会 議 録

日 時：平成25年11月13日（水）午後3時開会
場 所：札幌サンプラザ「高砂の間」

※ 重複した言葉遣いや、明らかな言い直しのあったもの、わかりづらい表現などは、整理した上で作成しています。

1 開会

○司会（石山市民部長）

2 あいさつ

○座長（幌北連合町内会 永野会長）

○阿部北区長

3 講演

○永野座長

ここからの進行を務めさせていただきます、座長の永野でございます。

本日の全体会は、初めに、北海道コカ・コーラボトリング株式会社、執行役員の上島信一氏から同社の地域防災を始めとした地域貢献の例などについてお話しいただきます。そのあと、8月の全体会で札幌市から説明を受けた「避難場所運営マニュアル」をもとに、避難生活時の地域の役割や、それを行うために、あらかじめ訓練しておくべきことなどについて、意見交換をしていきたいと考えております。ご協力、よろしくお願いいたします。

なお、お手元にアンケートが配られていると思いますが、本日の意見交換を通じ、団体として取り組んでいきたいことや、この協議会の運営についての意見などをお聞かせいただきますとともに、来年度のテーマについても、ご意見を頂戴したいと考えております。

アンケートは、全体会終了後に事務局で回収いたしますので、ご協力をお願いいたします。

それでは、まずは、北海道コカ・コーラボトリング株式会社、上島信一様から講演をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○北海道コカ・コーラボトリング株式会社 上島執行役員

<講演>

○永野座長

どうもありがとうございました。

それでは、意見交換会に入りますが、これにつきましては、事務局の方をお願いいたします。

3 意見交換

○事務局（石山市民部長）

それでは、本日の意見交換会について、ご説明を申し上げます。

本日の意見交換会では、避難生活の安全を確保し、支障や混乱を最小限に抑えていくために、避難所で住民組織が中心となって行うべきことや、あらかじめ訓練しておくべきことなどについて、意見交換をしていきたいと思っております。

意見交換会は概ね60分程度とし、意見交換のあとには、10分程度の休憩を挟んで、各グループから発表をしていただきたいと思っております。

進行役は、各グループにおります、まちづくりセンター所長が務めますので、どうぞよろしくお願いいたします。
それでは、はじめてください。

<意見交換>

○事務局（石山市民部長）

時間となりましたので、各グループからの発表に入りたいと思います。それでは、Aグループから順に発表をお願いします。

○Aグループ（松井 拓北・あいの里連合町内会会長）

Aグループの松井でございます。それでは、簡単にご説明いたします。まず、いろいろ議論としてはたくさん出ました。行政に対するお願いや細かい問題も出ました。それは別問題として、北区に考えていただいとと考えております。それでワークショップの進め方の①の総務・情報管理について、いろいろ議論した結果、我々のグループとして一番困っているのは、情報管理の体制づくりをどうしたらいいかという問題です。これは、昼の場合と夜の場合と二通り作ったらどうかということ。というのは、単位町内会長さんも、現役の方や働いている人と、定年で辞めて自宅にいる人という形で、単位町内会長さんでも働いている方は、ものすごい多いと。そうすると、昼の体制というのは作り方が非常に難しい。それと女性を中心として体制を作ったらどうかということ。そうすることによって、実際災害が起きた場合に、いろいろデータ的に見ると、女性の活用というのは非常に重要視されているという点では皆さんの意見が、女性の体制を作ったらどうかという意見が出ておりました。それから施設管理について、その地域、地域で避難場所はありませんけど、それについてどれだけの収容人員が置けるのかという、その実態がなかなかつかめない、ということについて、それぞれの避難場所の体制、施設をどのあたりの方が入るのかということの詳しい詳細を我々準備しなければいけないのではないかなあと。それから施設管理の中で一つ、これは私の地域の問題なんですけども、いわゆる要援護者、肢体不自由者などの障がい者など、この人たちが昼間の場合、相当の数が地域にいた場合、その対応をどうしたらいいかという、これが非常に頭の痛い問題ということが出ております。

それから三つ目の物資の関係、現在まだ、施設の避難場所の施設に保管されているのはたくさんありますけど、一カ所に部分的にしか置かれていない、これを早急に上げてもらいたい。

まあ全体的には、いろいろ細かい問題が出ておりますが、情報管理が一番議論の中心となりました。以上でございます。

○事務局（石山市民部長）

ありがとうございました。続きましてBグループ、よろしくお願いします。

○Bグループ（大西 新川連合町内会会長）

それでは、Bグループの議論の結果を発表させていただきます。一番重要視されたのは、初動、最初にどうするかということから議論があちこちさまよい歩いて、まずは避難所の運営やそういうもののリーダーシップをだれが創るんだとか、行政が来なかった場合はどうやって対処するのか、そういったことについて時間を割いたわけです。

避難が始まってからの名簿の作成とか、避難所に落ち着いてからの名簿の作成とかトイレの問題、水、食料の問題、こういった問題については、流れの中で対応できるだろうということです。

一番の問題は、初動時のリーダーをどう決めるかとか、これからの過程としては、学校と企業の連携というものを大事にしていこう、コンタクトをもっと強くしていく必要があるのではないかとということ。それから各連町の防災訓練においてもバリエーションを持たせて、より多くの人に参加して、そういった緊急時により知識を持った方が多く集まるような訓練をすべきことを考えて取り組むべきではないかということ、それから障害者の対策としては、日頃のコミュニケーションをとって迅速に対応できるような体制をとるべきではないかということ、こんなような形で討議を終えたところです。どちらにしても初動ということが一番大事になるわけで、自然発生的なリーダーによって初動体制を作っていくのか、それとも、行政の対応するのを待つのかというような二つの議論を平行していくべきではないかという結論でございます。私のほうからは、以上です。

○事務局（石山市民部長）

ありがとうございました。続きましてCグループ、よろしく申し上げます。

○Cグループ（大門 麻生連合町内会会長）

Cテーブルでございます。麻生連合町内会の大門と申します。私どものテーブルでは、基幹避難所と地域避難所の仕分けについてどう考えたんだろうねというのが一つありまして、たまたま私どもの地域だけのことについて申し上げさせていただければ、麻生連合町内会ですけども、小中学校がかたまっているんですよ。地域の端の方に2つ固まっていると、こういう実態なんで、じゃあ遠くの方は困りますよね、その中間のところに麻生総合センターというのが一つあるんですけど、ここが地域避難所になっているんですけど、今回地域避難所から食べ物、これが全部引き上げることになりますよね。これで本当にいいのかなあというのが一つです。だから、最小限地域避難場所にも半日ぐらいの緊急の飲食物、例えばお子さん方の物であれば離乳食ですとかいろいろあると思うんです。子どもは待てませんので。大人は待てますけど。最小限のそういうものは、少なくとも地域避難場所にも備蓄させてもらいたいなあというのが一点ですね。もう一つはそういうことを決める前に、本当は地域の実情をもうちょっと聞いてから決めていただければありがたいなあと思いますね。先ほども申し上げましたが、私どもの地区は遠いところはずっと端ですから、端から端まで避難所行くんですか、近くに例えば新琴似の小学校がありますけども、じゃあ麻生の人たちが新琴似の避難所に行ってどうなるんだろう。いっという、一瞬入ったとしてもそこで収容して生活していくとなったらとてもそこで

は多分できないでしょう。実態的には。知らない顔ばかりですから。そういう苦勞があるんでできれば多少10分や15分遠くても皆さん同じ地域で集まって避難させてほしいと、これが要望であります。それからひとつありますので、基幹避難場所に市の職員が行って開放してくれるようでありますけども、それが間に合わない場合、結局誰かが言って学校のガラスを割って入る中で、緊急の場合に、その割って入れる人の指定ということは地域の人にもその指定を何人か複数の人にも与えてもらったありがたいということです。そうしないと夏場の時だといいいんですけど、本当に寒いとき、吹雪のときなんかはまってられませんので、そういったことを考えると、いち早くそこへたどり着いて窓を割るなりして入って行けるような指導を行う、指定をさせてくれとこういうことをございます。それから避難所のもんだいですが、先ほどもふれられましたが、女性に対する視点、観点から、いろいろ掘り下げて女性の方々の意見をききながら運営しなければいけないんだなあと。去年、宮城の方がお越しになって、ここで意見交換を行った際に非常に困ったことがあったということで、何だろうとお聞きしたところ、結局女性の扱いにしろ、例えば更衣室とか、女性の備えているもので、生理用品が全くなかったというわけで、そういうことで女性から相当に不満があったというような例がたくさんありまして、やっぱり女性を中に入れてこういうものを運営していく時に十分意見を聞いてやっていかなければならないのかなあというのが私の実感であります。

それから名簿の件ですけども、これは早くに渡って一番大事になるのが名簿になると思うんですね。私どもの方としては、日頃からできれば災害弱者の名簿を事前に作っておく必要があるのではないかと、その場合もできれば重い人、軽い人、二段階か三段階に分けて名簿を管理しておけば便利でしょうねということであります。それで避難所にその名簿をそれぞれ置いて、集まってくる人の中から、この人がきました、この人が来ませんねえというチェックできる体制が望ましいんでしょうねということでした。事前にそういった名簿を作っておくということ。それから、あと一般の人が来た都度その名簿に自分で記入してもらえばいいだろうということで、名簿の種類として一種類あったほうがよろしいんじゃないかという意見でした。

それから当然ですけども、避難場所の周知ということで、地域の人は何年も前に避難所マップといったものを作ってやっているんですけどもちょっと古くなると全然そういうものが機能しなくなるということで、この更新は非常に大事になってくるんで、こういうものはしょっちゅう、あまり遠からずの年の間で、皆さん方にお配りしないと、人の移動が激しいもので、札幌市は、そういう実態が各単町の例に出すと実態があるんですね。だから、それは単町ごとに少なくとも心掛けなければならないことではありますけども、市からもそういったことを示唆していただければ、その都度意識しながらやっていけるだろうということでもあります。

それからもう一つ最後になりますけども、収容避難場所に市の職員が来ることになっていきますけど、結局当日その日になってみないと誰が来るのかわからないですよ。来たって、本当にその人かどうかもわかりませんから、したがってできれば指定された人が3~4人決まるそうですから、決まったらだれがその人なのかということ、少なくとも連合町内会の役員会くらいに一回顔を出していただいて、顔合

わせさせていただければありがたいと思っております。そこでお互い、こういった人だ、ああいった人だと確認していただきたいと思えます。それともう一つは、市の職員の役職のことでありますけども、できれば最低限課長職を一人くらい配置していただければ、と思えます、もちろん全体の市とのパイプ役ということもありますし、相談事もしやすいでしょうし。まあ、ヒラの人だとダメだというわけではないですけど、あくまでも希望ですけどそういう方の方が望ましいのではなかろうかという意見であります。以上であります。

○事務局（石山市民部長）

ありがとうございました。続きましてDグループ、よろしく申し上げます。

○Dグループ（加藤 北区民生委員児童委員協議会会長）

Dグループ、加藤と申します。まず私どもが考えたのは、当日の指揮者、指導者をどのようにえらんだらいいかということで、私どもはまず連町の会議にかけて、それぞれの単町に地区の責任者を選び出してもらおうと、その指導の下に、避難する場所を選ぶ、例えば学校であり、町内会館であり、施設の空き倉庫であり、例えば車椅子を使う人、私はこの家から一步も動かないという人が絶対いるはずですから、「じゃああなたはここでいい、後でお見舞いに来る」みたいな話していいかどうかはまた別の話ですけど、こういうような形で単町の中を一番知っている方、これは会長さんであるか、その中で話を決めてもらおうと、で、そのグループがどこに避難するのか、学校が近いのか、町内会館いいのか、どっかの葬儀式場がいいのかということを決めていただくということで、まず連町会議にかけて、単町の会長さん方にこの話をし、細部にわたって責任者を選び出すということを決めたいなと考えております。

二番目に、今、なんのために避難するかということを知っていれば、苦情も出ないんでしょけど、避難した途端に苦情を言う人、何もしないでああでもないこうでもないという人がいると思うんですね。そのこともある程度決めておいて、多少心臓に毛の生えたような牢屋名主みたいな方がいいのかなあと思いました。災害時要支援者の支援の観点で平時から単町などの要援護者を把握しておく必要あるのかなということで、正直言って、なんでもかんでも民生委員さんっていても被害者かもしれませんし、ある程度よたっているのかもしれないから、あんまりあてにはならないのかなとも思いますがけれども、常に高齢者を見守っているということの利点がございますので、この方々にも常に、声をかけておきたいなと思えます。

三番目に、どのように安全安心を皆さんにもたせればいいのかということが大事なことです。いかに近いところに避難させるかということで、今この状況は何なのかをまず把握し、なんでもかんでも行政ということもないでしょうし、食事なんかもコンビニ行けばあるだろうというのは確かにあります。ただ三日しか持たないものしかありませんので、朝ご飯食べれば、明日の朝までは死ぬことはありません。ちよつと空腹はかんじますけど。その辺を我慢していただければ、多少自分の油揚げが減ったところで命に係わりはないかと思えます。ルールを守らない人がいるということ的前提にし、考えなければならぬ。一番難しい問題が2番と3番じゃあな

いのかなあとと思います。苦情処理がうまくいくと、避難所の運営も少しはうまくいくような気がします。最後の4番目ですが、避難所にどのような食糧や物資が備蓄されているか、行政が明らかにすべきであり、地域も把握しておく必要がある、これは言うまでも無くある部分については何百食、ということで、何千何百人避難してくるか全く分からないところで、明らかにしておくことは不可能にちかいです。先ほども申しましたように、3日食べても死にませんから、心配なく。まあ水だけは何とか必要ではないかと思っております。避難所での役割、体制を普段から単町レベルでこれはもうくどくど説明しておくか、理解していただければある程度災害も乗りこえられるのではないかなと思います。この中で地震なのか火事なのか、なんなのか台風なのか、あれだけやられたら逃げようがないですね。各自8畳間くらいのコンクリートの箱を作ってそこへ家族が入れるように考えてはいかがでしょうか。絶対に飛ばされないように。それはそれとして、そんな夢もいいのかなあと思いながら、笑って話をしている場合ではないですが、Dグループは以上でございます。ありがとうございます。

○事務局（石山市民部長）

ありがとうございました。続きましてEグループ、よろしく申し上げます。

○Eグループ（梅香 鉄西連合町内会会長）

最初に発表するのは非常に楽なんです、最後になりますEグループ、鉄西連合町内会の梅香でございます。ほとんど皆さん方のご意見で網羅されておりまして、特にないなあとと思いますけれども、長時間、私どもも討議をいたしましたので、型通りの発表をさせていただきたいと思っております。マニュアルができましたけれど、これが実施する際につきましては、あくまでマニュアルであって、ケースバイケース、その都度どういったことがおきるのかというのは、マニュアル通りには起きてこないだろう、これが災害の特徴だろうと思っておりますので、備蓄、施設整備等についても基本からしっかり取り組んでいく、基幹避難所の学校であれば、学校の機能をしっかり掌握していく、またそういうことで、実際の運営につなげていく内容を深めていくことができるんじゃないだろうか、特に一般避難所を町内会といたしましても、事業所と協定をいたしまして、そういうところを多く作っていく、例えば鉄西連合町内会を例にしますと、端から端まで約1キロ以上はございますので、1丁目に北九条小学校、一番遠くは北大のそばの西10丁目ということですので、おいそれと避難することはできないだろう、こんなことで、この途中にいろんな公共施設や大きな建物がございますので、そういったところと協定書を交わすという形で、しっかり体制を作ってまいりたいといったことで考えてございますし、また、皆さん方と一致した意見でございました。また、地域、行政それぞれ立場が違いますが、より緊密な役割意識を深めていく、これがやっぱり災害を最小限度に喰いとめていく、大きな力になっていくんじゃないだろうか、やはり行政は行政の考え方、地域は地域の考え方がございますので、この辺を、積極的につないでいく、溝を埋めていくという、こういう行動がやはり必要じゃないかと思っております。先ほど申しましたように、基幹避難所だけではなくて地域避難所をより多く作って

いく、あくまで食料等の供給は基幹避難所だと思いますが、その中で地域避難所から順次基幹避難所に移していくこんなことも重要かつ第一面としてはそういうことやらなければいけないかなあと、ただ、学校といたしましても、全町内会の方々が収容できるとは思っておりません。とりわけ、衛生面の問題でありますけども、私どももちょっとでました。トイレどうするかということであります。簡易トイレが、数だけ、何千個と用意できれば全く問題ありません。しかし、それぞれ、バケツ持ち寄ってビニールの袋と凝固剤があれば、あとなんか板を加工したのを作っていれば、簡単なトイレができるよねというような話もございました。これもまた順次知恵を絞りながらこういうことも進めてまいりたいと思っております。あとは地域の住民の皆さん方に地道に防災マップ等をとおして情報を提供して、そういう情報提供、開示をしながら、リーダーの育成に努めていく、こういう手順が大変重要ではないだろうか。やはり、避難所で一番大事なものは、その中心となるリーダーであります。先ほど、大門さんのところでしたか、話がありましたけど、私どももだいはなしをしたんですが、こういう席上でありますけども、天を二分する女性が数名しかいらっしやらない、これでは女性対策は男性はできないな、こんなことも女性のリーダーの育成と同時にそういう女性のお知恵を存分に発揮しお借りをする、こういう体制が無いと、避難所運営等も非常にむずかしいかな、こんなことでございます。たくさん議論いたしましたけれども、これを話したら、45分やったら45分かかりますので、これくらいにいたします。ありがとうございました。

○事務局（石山市民部長）

ありがとうございました。これで全グループの発表が終了いたしました。

ここからの進行につきましては、再び永野座長にお願いいたしたいと存じます。お願いします。

○永野座長

皆さん、大変お疲れ様でした。本日の意見交換内容は、事務局でまとめていただき、後日、報告させていただきます。

今年度の北区まちづくり協議会全体会は、本日で最後となります。来年度の協議会のテーマについて検討したいと思います。

今年度は、大テーマを「防災」、意見交換テーマを「避難時の地域の役割・行動」としておりました。来年度の大テーマにつきましては、引き続き「防災」としていききたいと思います。いかがでしょうか。

<拍手にて承認>

ありがとうございます。続きまして、意見交換テーマについてですが、意見交換テーマにつきましては、本日お配りのアンケートで皆さまのご意見を伺い、運営委員会で決定したいと考えておりますが、いかがでしょうか。

<拍手にて承認>

○ 永野座長

ありがとうございます。それでは、来年度の意見交換テーマは、皆様のご意見を伺い、運営委員会で決定いたしますので、よろしく願いいたします。

それでは、北区まちづくり協議会全体会を終了させていただきます。

皆さん、ご協力ありがとうございました。

5 閉会

○司会（石山市民部長）

永野座長、お疲れ様でした。

永野座長からもご案内がありましたが、ご記入いただいたアンケートにつきましては、お帰りの際にお預かりいたしますが、この場では書ききれないということであれば、お持ち帰りいただき、後日、郵送またはFAXにてご提出いただきたいと思います。その場合は、恐れ入りますが、11月22日金曜日までにご提出をいただきたいと思います。

それでは、北区まちづくり協議会全体会を終了させていただきます。皆さまお疲れ様でした。

<終了>